

蜂との付き合い方

内藤遊多

蜂と聞くと怖いと感じる方が大半でしょう。日本に生息するハチの仲間は 4000 種を超えますが、そのうち人間を攻撃する毒針をもつ蜂は 20～30 種程度です。

◇人間を無意味に攻撃する蜂はいません。必ず理由があります。

スズメバチやアシナガバチ（スズメバチ類）が人間を攻撃する理由

- ・自分の身に危険が迫ったと判断したとき
- ・自分の巣に危険が迫ったと判断したとき

蜂は自分たちの身を守ろうとしているだけなのです。



◇こちらに悪意がない場合でも、蜂側に脅威と判断されてしまう場合が少なからずあります。自然を訪れる際には、蜂たちを誤解させないように訪問者の立場である人間側が考えて行動する必要があるでしょう。

スズメバチ類が近くにいるとき

- 刺激しないようにゆっくりした動作で離れる
- 手で払ったりしない

◇むしとりをする中でスズメバチ類から誤解をうけないよう**注意すべきことは3つ**だけです。

①蜂の巣のありそうな藪、木の穴、倒木などをいきなり分け入ったりつついたり乗ったりしない。

→木の穴や倒木の中、付近にはスズメバチ類が巣を作ることが多いです。「かもしれない運転」のように、「巣があるかもしれない」を念頭に置いて行動しましょう。怪しい場所を数分見ていれば、蜂の巣があれば出入りがあるので気づくことができます。

蜂の種類によっては、巣から5mほど離れていても激しい動きに反応して攻撃してくる種類がいます。見つけたらすぐさま距離をとりましょう。カチカチと威嚇をしてきた場合は、攻撃の一手手前なので、迅速かつ緩慢な動作で後退りしてください。



②樹液の木に来ているスズメバチを刺激しない。

樹液に来るカブトムシやクワガタを探す時、スズメバチも同じ樹液を好むのでしばしば同所の樹液酒場に現れることがあります。

昼間の酒場にスズメバチが1匹だけいる時は、飛び去るまで待ちましょう。複数匹いるときは、いなくなることはないので諦めましょう。樹液酒場を見ている時にスズメバチがあとから飛来してきても慌てなくて大丈夫です。やってきたスズメバチたちは空腹なので、人間のことはまず頭にありません。こちらから先制攻撃をしなければ、攻撃される危険は皆無です。

夜の樹液酒場に来ているスズメバチには要注意です。ライトを向けると一直線に光へ飛んできます。羽音がしていたら、ライトを消して離れましょう。



③お盆以降のスズメバチはイラだっているので特に注意する。
→秋のスズメバチ類は繁殖シーズンのため他の時期より攻撃性が高くなります。先の①と②に関して、より注意をする必要があります。スズメバチの多い森や緑地での親子連れの昆虫採集はお盆前をお勧めします。

逆に言えば、7月までのスズメバチ類は巣も小さく、働き蜂も少ないために危険も少ないです。

スズメバチのことは、怒ると怖い学校の先生だと思って接して下さい。本来はおとなしい生き物です。人間と共存できますし、人間にも恵みをもたらします。先生と生徒、きっと仲良くできるはずです。

◇わたしたちはスズメバチからたくさんの恵みを受けています。
分かりやすくスズメバチがいなくなるとどうなるかを記します。

①頂点級捕食者昆虫のスズメバチがいなくなることで、食う食われるの関係（生態系）が変化し、昆虫の生息数が変化する。

②セイヨウミツバチはオオスズメバチに巣ごと捕食されてしまうため野生化できない。スズメバチがいなくなると、ニホンミツバチが外来種のセイヨウミツバチにとって換わられていなくなる。なお、様々な種類の花を訪れるニホンミツバチと異なり、セイヨウミツバチは特定の種類の花ばかりから採蜜する習性がある。



①や②が起きると...

(1) 国産野菜や果物とその加工品（調味料・カシ・ジュース等）の価格が高くなる可能性がある。

→それまでスズメバチに食べられて、数が抑制されていた作物や樹木を食害するカメムシ・バッタ・チョウ・ガ・コガネムシなどの植食性昆虫の大量発生を招く可能性が高い。虫による被害で農産物の価格は高騰する。また、ミツバチの種類が変わり、セイヨウミツバチがやって来ないために受粉の機会が以前より減ることで作物の収穫量が減ってしまう可能性があり、価格の高騰を招く。

(2) 季節の花を楽しめなくなる可能性がある。

→野菜や果物と同様に、野山の野草や樹木にも同じく大量発生とミツバチの影響が出てしまい、特定の花が減ったり咲かなくなったりする。

(3) ニホンミツバチ特有の濃厚な百花蜜を味わえなくなる。

(4) スズメバチに捕食されていたクワガタムシ寄生蜂であるアカスジツチバチの大量発生によるコクワガタの大減少など、食物連鎖の変容によって特定の昆虫やその他動物が急減する可能性がある。

安い野菜や果物を買って、山野のハイキングで美しい花畑を眺め、蜂蜜を味わい、家族でクワガタを捕まえる。既に知らず知らずのうちに我々は生活の中でスズメバチの恩恵を受けているのかもしれない。

そしてそれはスズメバチのみがもたらす恩恵ではなく、全ての生物がパズルのピースのように欠けることなく各々の役割を果たしているからこそ成り立つ、生物多様性の恵みなのです。

以上